

平成26年度 第3回 総合計画審議会

欠席の委員からの意見

●基本理念について

・基本理念全体について

視点はこれまで市が行ってきたことやまちづくりの基本ということから、この3つは良いと考える。

・「安心」について

安心は治安や災害、医療などいろいろな安心あるが、それぞれの個人がどういう安心を求めているか、ライフステージによってもそれぞれの安心があると考ええる。

・「快適」について

「幸福論」というものがあり、一人ひとり自分なりの価値観での幸福を求めるものが世界的潮流となっている。市民それぞれが、自分なりの快適を求められるまちづくりを目指すことが大切と考える。

●将来像について

・前文について

「新たなステージに突入」と「まちづくりの転換期」というのは、これまでは、ニュータウン事業を中心にまちづくりを拡大路線できたが、人口減少、少子化、高齢化の進展により、これからは、持続可能性を求めていく必要があるので、「新たなステージに突入」と「まちづくりの転換期」であると考ええる。

・将来像について

人と自然、環境に着目したことは良いと考える。スローガンの「ときめき」は悪くはないが、「ときめき」は直感的な感覚がある。

あくまでも個人的意見だが、市民参加・協働プランの「響きあい」という言葉は出会いや、交わって、融合して、意見もぶつかり合うなど、今回の将来像の要素があると感じている。

●まちづくりの重点戦略について

・戦略1「若者定住プロジェクト」について

若者の定住は、子を生む女性そのものが減少していることから、若い女性が定住することの視点も大切になってくると考える。

また、若者が白井市に住んでもらうことプラスして、白井市でイベントを行うなど、交流人口を増やすことや、起業してもらうことも大切。

・戦略2「みどり活用プロジェクト」について

みどりの活用プロジェクトは自然に付加価値をつけることだと考える。

「地産地消」は、さらに付加価値をつけて、市内・外に販路を拡大する方向になると考える。また、「みどり」は「環境保全」として、もう少し、「みどり」の幅を広げたほうが良いと感じる。

●まちづくりの進め方について

・(2) 参加・協働について

「自己決定・自己責任」は、どちらかという行政のことをいっているので、「地方分権の進展により、自立した自治体が求められる」ということでよいと考える。

・全体について

全体を「持続可能な行財政運営」として、その中で、情報・共有、選択・集中など財政効率化、協働やアウトソーシングなど役割分担などを捉えていく考え方もある。

●将来都市構造について

・中心都市拠点について

現在の成熟した社会では、「多中心性」となっている。「中心」という言葉ではなく、もっと広く読める言葉が良いと考える。

●その他

・ライフステージに応じた、費用負担（行政負担）を示して、例えば、ここにはこれだけの費用がかかっているのだから今後は協働を進めないといけない部分ではないか等がわかることも大切と考える。

・基本計画部分はマトリクスで表したほうが良いと考える。